

会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 3 回弘前城跡本丸石垣修理委員会
開 催 年 月 日	平成 2 8 年 3 月 2 9 日 (火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	1 0 時 0 0 分 から 1 2 時 0 0 分 まで
開 催 場 所	弘前市立弘前図書館 2 階視聴覚室
議 長 等 の 氏 名	田中哲雄 (元文化庁主任文化財調査官)
出 席 者	北垣聰一郎、関根達人、長谷川成一、福井敏隆、麓和善、柳沢栄司
欠 席 者	千田嘉博
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	(弘前市都市環境部公園緑地課) 公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、同課長補佐・小嶋修造、弘前城整備活用推進室兼スマートシティ推進室総括主幹・神雅昭、弘前城整備活用推進室総括主査・鶴巻秀樹、同室主査・横山幸男、同室主査・笹森康司、同室主事・今野沙貴子 (記録) (弘前市教育委員会文化財課) 文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・工藤雅人、同課文化財保護係長・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介、同係主事・工藤麻衣
会 議 の 議 題	①今年度の発掘調査の成果について ②石垣解体工事実施設計について
会 議 結 果	①今年度の発掘調査の成果について イ. 発掘調査のデータを整理して、元禄の石垣と近代の石垣の違いをさらに明確にすること。また、石垣解体に伴う調査記録も、報告書として刊行すること。 ロ. 平成 2 8 年度は、天守台付近 1 8 7 m ² と今年度調査区北端付近 1 3 3 m ² の発掘調査を実施する。 ハ. 幕末から近代の石垣に関する史資料について、市民に情報提供を呼びかけるとともに、弘前市立博物館・弘前市立図書館所蔵品の精査を行った。また、函館市立中央図書館所蔵品の中に、関係する古写真を見つけた。 ②石垣解体工事実施設計について イ. 解体工事に当たっては、事前に他の城跡等の石垣解体経験者の話を聞き、問題点を整理しておくこと。 ロ. 特記仕様書については、細部のチェックが必要。粗々の状態で工事に臨むようなことは、絶対にあってはならない。 ハ. 平成 2 9 ・ 3 0 年の 2 ヲ年で石垣の調査・解体を終えるのは、現体制のままでは厳しいように感じる。

<p>会議資料の名称</p>	<p>① 平成 25～27 年度弘前城本丸石垣発掘調査成果概要 ② 平成 28 年度弘前城本丸石垣修理事業に係る本丸平場発掘調査要項 ③ 天守台平面図、天守台エレベーション図（１）・（２）、天守台石垣北面立面図 ④ 平成 28 年度弘前城跡本丸石垣解体工事特記仕様書 ⑤ 弘前城跡本丸石垣修理に関わる古写真等の調査について</p>
<p>会議内容 （発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等）</p>	<p>① 今年度の発掘調査の成果について イ. 今年度の発掘調査の成果について （事務局） 平成 25～27 年度の発掘調査成果について報告。 （委員会） ・蛇口の時期が重要。元禄の石垣と近代の石垣、どちらに属しているのか確認すること。 ・発掘調査のデータを整理して、元禄の石垣と近代の石垣の違いをさらに明確にすること。 ・距離を示す数値の記録された近世の絵図と、実際の遺構を照会して見ること。 ・石垣解体に伴う調査記録も、報告書として刊行するように。盛土の土層断面と裏込の状況確認を済ませた段階での報告とすれば、内容に間違いがない。</p> <p>ロ. 平成 28 年度の発掘調査について （事務局）平成 28 年度は、天守台付近 187 m²と今年度調査区北端付近 133 m²の発掘調査を実施する。後者の調査区は、元禄と考えられる石垣の追加調査と、慶長の石垣の確認調査のために設定する。 （委員会） ・天守台表面に散在する大型石の中に、天守の礎石が含まれている可能性もある。 ・慶長の石垣背面に、近世の土堀跡が残っている可能性もある。</p> <p>ハ. 古写真等の調査について （事務局）幕末から近代の石垣に関する史資料について、市民に情報提供を呼びかけるとともに、弘前市立博物館・弘前市立図書館所蔵品の精査を行った。また、函館市立中央図書館所蔵品の中に、亀裂の入る天守台石垣等の古写真を見つけた。 （委員会） ・天守台より北側の石垣の崩落状況に関する史資料が不足して</p>

	<p>いる。本当に残っていないのか、再度確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 古写真を調査する場合には、古い写真館に協力を求めるのも良い方法。 旧制弘前高校は、伝統的に下乗橋で記念写真を撮っている。参考になるかもしれない。 <p>②石垣解体工事実施設計について (事務局) 平成28年度に、石垣解体工事の実実施設計に着手する。要点は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大手ゼネコンに、地元1社以上を加えた3社JVの発注を予定。ゼネコンには、石垣修理の実績を問う。 業者選定に当たっては、技術提案型の総合評価を実施する予定。石垣の解体データをもとに、孕みの原因とその対策を提案してもらう予定。また、公開型工事の方法も提案してもらう。 平成28年7月上旬に入札、7月下旬に仮契約、議会終了後の9月下旬～10月に本契約というスケジュールを考えている。業者決定後、年度内は足場設置・築石の番付を行って、冬期間は休工とし、平成29年度から石垣解体作業を本格化させる。 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の石垣解体工事現場を視察しておくこと。修理経験者の話を聞いて、あらかじめ問題点を整理しておくこと。 特記仕様書については、細部のチェックが必要。粗々の状態で工事に臨むようなことは、絶対にあってはならない。 解体調査に当たっては、築石に再加工痕の有無を確認すること。例えば慶長の野面石が、元禄の石垣築き足し時に割石となっている可能性もある。近代の修理においても、同様のことがありえる。 1石はずすごとに、石材・背面構造の調査が必要。現実的に、現体制では平成29～30年の2ヵ年だけで石垣解体・調査を終えるのは厳しいのではないか。 石垣の要は、根石である。2石目からの積み直しは、相当難しいことを考慮しておくこと。耐震面では、動的解析が有効である。 石垣の勾配と、背面土圧について検討しておくこと。
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会議の公開、非公開…公開 傍聴者数…4名 (東奥日報・陸奥新報・読売新聞・毎日新聞)